



第一〇七号 令和三年二月二十五日(月)

## 令和二年度を振り返って

今年度は、世界中が新型コロナウイルスに振り回された一年でした。作左の会としても制約の中、知恵を絞りながら行動した年でもありました。

### ① 事業の実施状況

**総会・講演会・作左ゆかりの地視察研修旅行**は中止を余儀なくされました。その時は、これからの事業がどれほどできるか不安にかられました。

**ふるさと賞**は、学校が休校、短縮授業等大変な中でも、自由参加の形で参加して頂けることとなり、何とか実施に踏み切ることができました。でも、表彰式の当日まで、会場の使用ができな



表彰式風景 (参加人数縮小)

くなるのではなど心配もありました。

当日は、参加人員の縮小など、徹底したコロナ感染症防止対策を講じ無事に実施できました。

今思えば、何事もなく無事に終わり良かったと思います。

**俳句の会**は、会場使用禁止の制約もありましたが、法性寺公民間の借用等ご協力により予定通り毎月実施出来ました。

**歴史を語る会**は、学区以外から参加される方もあり、好評で四回実施出来ました。

### ② その他の出来事

七月に、作左ゆかりの地であります福井県丸岡町から「一筆啓上日本一短い手紙の館」の館長はじめ五名が来訪され、親しく意見交換ができました。



丸岡町の皆さんと 作左生誕碑前で

それから、以前から懸案の「作左の紹介パンフレット」が、まもなくできる運びとなりました。楽しみにしていただけだと思います。

### ③ 今後の在り方

今年も、コロナ感染症の早期終息は望めないかもしれませんが、しばらくは、我慢、我慢かも……。しかし、事業の安易な中止は避けたいと思います。今できることを模索しながら創意工夫により、コロナ禍での安全な会の運営に取り組んでまいります。

また、コロナ禍を通じ社会のシステム、社会構造の変革等考えさせられることも学びました。今後活かしたいものです。



作左の会

検索